

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

母への想い

千代野小学校六年

北野きたの

渚斗なぎと

ぼくは、毎日学校に行つて友達と遊んだり話したりしているけれど、いま友達と楽しく遊べているのは母のおかげです。もし母があの時看病してくれていなかったら、今は外出するのがいやで、あまり友達と話したり遊んだりしていなかったと思います。もしかしたら、学校に行けなくなっていたかもしれません。

ぼくは四年生の時に、辛い病気になりました。その時は、病気のせいで落し物や忘れ物が気になりすぎて、学校に行こうとしても不安で途中で家に戻っていました。自分ではその気持ちを治すことが出来ませんでした。それが原因で友達にも迷惑をかけてしまい、とても悲しい時期でした。そして、本当は友達と遊びに行きたいのに、だんだん外出するのが嫌になっていきました。

他には、体が動くくせが出て、止めようと思つても止まらなくて、友達に「なんでもくせが出るの。」と聞かれたりしました。また、すぐ感情的になつてしまい、ちよつとした事で悲しくなつたり辛くなつたりして、泣いてしまう事もいっぱいありました。

それに母が気付いて、専門の病院を探して連れて行つてくれました。そして、毎週遠くの病院に一緒に通つて、病院の先生にぼくのことについて話を相談しました。また、今一番つらいことは何なのか原因を話し合つたり、病気がよくなる方法を一緒に考えたりしてくれました。それから、病気が良くなるまでずっと続けて通つてくれました。

他にも学校の先生に相談して、ぼくがなるべく学校で困らないようにしてくれていたと思います。学校に行きたくない日も沢山あったけれど、学校に行く前に母と話をすることで何とか学校に行けていました。家でも、ぼくの話をも聞いてくれて、「落斗は悪くないんだよ。」となくさめたり「病気は必ず良くなるよ。」と勇気づけたりしてくれました。そして、父と一緒に「ぼくの良いところ」をたくさん紙に書いて誉めてくれたり、くせが治るように色々努力してくれていたのだと思います。

それでも、なかなか治らなかつた時には、母は泣いていました。その

時はなぜ母が泣いているのがよく分からなかつたけれど、病気が良くなった今は、ぼくの事を心配してくれていたのだと分かりました。他にも、家族で楽しい事を探したり、ぼくが夢中になれることを考えたりしました。また、ストレスにならないように、母は日々の行動にも気を使つて、できる限り優しく接してくれました。だから、不安なことや悲しいことも少しずつ減つていきました。ぼくは、それをとてもありがたく感じていました。

何か月もかけて、母が毎週病院に連れて行つてくれたかきもあり、ぼくの病気は少しずつ良くなっていきました。だんだん、落し物や忘れ物が気にならなくなつて、学校に真つ直ぐ行けるように気持ちが変わりました。ぼくはあの時はとても辛かつたけれど、いつも母がそばで見守つてくれたので、病気に負けないように頑張ることが出来たのだと思います。体が動くくせはまだ時々出てしまうけど、今は生活にえいきょうがでないので、困ることはほとんどありません。

今思えば、このままぼくの病気が治らなかつたらと考えると、母はすごく不安だつたと思います。それでも母は、ぼくの病気が治ると信じて頑張つてくれました。だから、ぼくの病気もここまで良くなること出来たのだと感謝しています。

母のおかげでぼくの病気はほとんど治りました。ぼくは今日も友達と話したり、楽しく遊んだりしています。勉強や宿題は時々嫌になるけれど、あの時のことを考えると、今普通に学校に通えているだけでもすごい事だと思えます。これからも、沢山心配かけてしまうと思うけど、ぼくも強くなれるよう努力したいと思えます。言葉じゃ伝えきれないけれど、僕は母が大好きです。